

探究の過程において自分で思考し、表現できる生徒の育成 —通常の学級における誰もが自由に選べる環境の設定を通して—

特別研修員 特別支援教育 坂本 早苗（中学校教諭）

生徒の実態

- 思考することに課題がある生徒がいる。
- 話を聞くだけでは、理解が難しい生徒がいる。
- 字を書くことが困難で思考や表現に結び付きにくい生徒がいる。

教師の願い

- 生徒一人一人が自分に合った思考や表現ができるツールを使って、思考や表現を続けながら課題に向かってほしい。

実践事例：理科 第1学年「音の性質：音の高さは何と関係しているのだろうか。」生徒21名

【手立て1】 ※ver.○名は使用した生徒の人数。
複数を組み合わせて使用した生徒も含む。

誰もが思考や表現の方法を
自由に選べる環境の設定

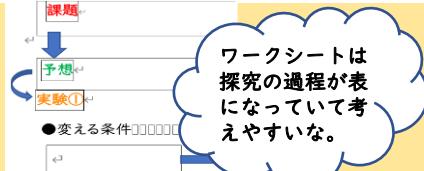
今日はどの方法で
取り組もうかな？

【手立て2】

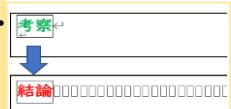
誰もが学習形態を
自由に選べる環境の設定

【探究の過程に合わせたワークシート】

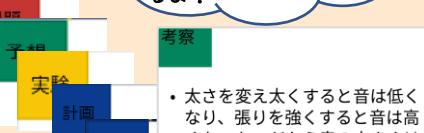
紙ver.
13名



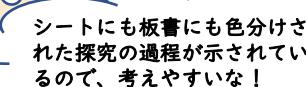
タブレットver.
8名



タブレット
自由ver.
4名



ノートver.
1名



課題

予想

計画

実験

結果

考察

結論

一人で



みんなで



自分に合った方法で考えたり、
表現したりできたぞ!!

【目指す生徒像】 探究の過程において自分で思考し、表現できる生徒

【成果】

○個別の配慮（言葉掛けなど）を必要な生徒だけに行っていたが、手立て1のように通常の学級の全員が選択できる環境を設定することにより、生徒一人一人が自分の思考や表現のしやすい環境を選択し、課題に向かい、自分の考えを表現することができた。

○生徒が課題解決中に、困難を感じても手立て2のように、周囲の生徒と一緒に考えられる選択肢があることで、自ら行動し解決できるようになり、個別の支援を行う必要が少なくなった。

【課題】

●探究の過程に合わせたワークシートに関して、一人一人の思考の仕方が違うため、生徒が課題解決に向けてより思考しやすいものに改善していく必要がある。

●学習上の困難のある生徒が授業者の意図した環境を選択しない場合がある。授業者が試行錯誤しながら繰り返し学習環境の設定を行っていくとともに、生徒が自分に合った方法を自然に選択できるようにする必要がある。